平成２３年度　業　務　棚　卸　表（事後評価表）

教育委員会教育支援課　課長　武内克彦	
作成日	平成24年8月27日

総合計画での位置付け	
基本目標または5つの視点	基本目標⑤　心豊かな”よっかいち人”を育むまち
基本的政策または上位目的	基本的政策1　自ら学ぶ力と豊かな心を持ち,たくましく生きる子どもの育成

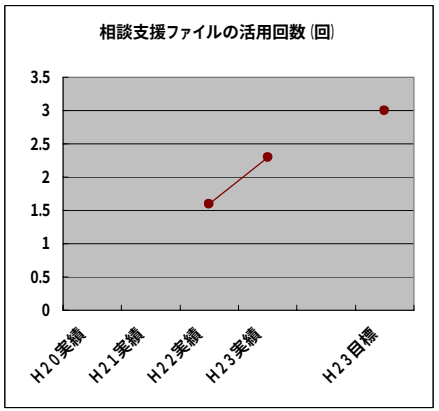
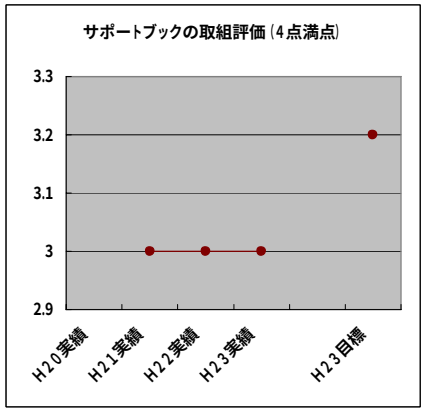
		成果･活動指標	実績（平成21年度）	実績（平成22年度）	実績（平成23年度）	目標（平成23年度）	達成度
任務目的	今日的な教育課題の解決に向けて,教職員研修や特別支援教育・教育相談，コンピュータ等の環境整備を行う。	保護者，学校・園や関係機関等との間で相談支援ファイルを活用した回数（年間一人あたり）	—	1.6	2.3	3.0	☆☆
		教師力向上サポートブックの活用による研修の取組評価	3.0	3.0	3.0	3.2	☆☆

23年度の実績を受けた取り組みの評価

･子どもの発達特性とその対応等についての情報を関係機関が共有し，早期から一貫した支援に当たるためのツールとして「相談支援ファイル」を作成し，子ども一人一人の教育的ニーズに応じた「途切れのない支援」を行う取組を進めてきた。これにより，就学･進級･進学段階での引継ぎや福祉や医療等の関係機関との連携が円滑に行われるようになってきている。小･中学校における，通常の学級に在籍する児童生徒の相談支援ファイル作成数が，平成22年度から80人分増加した。
･平成23年度は，相談支援ファイルの有効活用の手立てとして，活用台帳を作成した。台帳に活用した経過や内容等を記録することで，学校や保護者に活用への意識づけをすることができた。
･教職員研修講座では，個人年間研修計画に基づいた講座選択ができるように，教職経験年数（ライフステージ）に応じた講座の充実を図った。その結果，自己の課題に見合った研修講座の受講が増え，より参加者主体の研修となった。また，「教師力向上サポートブック」を活用した研修は，それぞれの学校での定着が進んだ。
･平成23年度は，全ての小･中学校で「ICTを活用したわかりやすい授業づくり」をテーマにした授業研究を実施したことにより，ICTの効果的な活用とその情報共有が進み，教職員全体のスキルが向上した。

これからの課題、施策等展開の方向性

･乳幼児期，学齢期，卒業時の引継ぎ及び関係機関との連携時において，「相談支援ファイル」をより効果的に活用できるよう，具体的な活用事例や連携方法等を研修会等の場で提示するなど，環境整備を進める必要がある。
･プロジェクトU-8事業については，平成24年度から福祉部に新設される「発達総合支援室」と連携し，教室運営の方法や指導内容等について検討を加えながら，途切れのない支援の充実に努める。
･心の病に対応するYESnet事業においては，出前研修や出前授業の充実を図るとともに，不登校児童生徒の事例検討会を重ねることにより，支援のあり方を探る。
･平成21年度から実施してきた「教師力向上サポートブック」「四日市市園･学校教職員　自己相互研鑽のために」の活用による研修の理念を踏襲し，自己相互研鑽を効果的に推進するための「教師力向上研修」をすすめる。また，より実践的で能動的な教職員研修講座を実施することで，一人一人の「教師力向上」を図る。特に，「若手教員研修」及び「ミドルリーダー教員研修」をさらに充実させ，学校内におけるOJTを生かした教職員の資質向上を支援する。
･各学校のICTコーディネーターを中心に，教職員のニーズやその学校の実態に応じた「工夫のある校内研修」の推進を図るとともに，研修の支援に取り組む。それとともに，ICTのより一層の整備拡充を図る。

相談支援ファイルの活用回数（回）	
Ｈ２０実績	
Ｈ２１実績	
Ｈ２２実績	1.6
Ｈ２３実績	2.3
Ｈ２３目標	3.0

サポートブックの取組評価（４点満点）	
Ｈ２０実績	
Ｈ２１実績	3.0
Ｈ２２実績	3.0
Ｈ２３実績	3.0
Ｈ２３目標	3.2